

第 8 2 9 回

## 臨時教育委員会会議録

日 時 平成 2 9 年 4 月 1 7 日 ( 月 ) 1 3 : 3 0 ~

場 所 市役所第 1 会議室

益田市教育委員会

第829回 教育委員会臨時会

招集年月日 平成29年4月17日（月）13時30分～

招集場所 市役所第1会議室

議事日程

第1 その他

(1) 協議

- ・益田市「教育に関する大綱」の見直しについて

(2) その他

- ・その他

出席者

教育委員会

教 育 長	柳 井 秀 雄
教 育 委 員	舟 橋 道 恵
教 育 委 員	水 上 芳 枝
教 育 委 員	渡 辺 隆
教 育 委 員	中 野 純

事務局職員

教 育 部 長	藤 井 寿 朗
ひとづくり推進監	大 畑 伸 幸
教育総務課長	山 本 裕 士
学校教育課長	武 内 白
学校教育課参事	城 市 博 明
人権・同和教育推進室長	田 中 智
文化財課長	木 原 光
美都分室長	吉 野 聡 子
匹見分室長	藤 井 文 江
教育総務課長補佐	斎 藤 一 臣
教育総務課主事	岩 本 純 平

柳井教育長　それでは第829回臨時教育委員会を開催いたします。よろしく願いいたします。まず初めに、年度初めで教育委員会事務局もたくさんの方が代わられましたので、先に紹介をさせていただきたいと思います。

《事務局員及び委員一言挨拶》

私は常々行政はサービス機関だというふうに思っております。教育委員会は子どもだけでなく大人も、市民の皆さんが幸せに生きるということは何だろうかということ常々思い、学校であれば、子どもたちが持っている能力を最大限に引き出すのが学校又は教員の責務だと思っておりますし、そこを何とか助けていくのが我々教育委員会の役目だと思っております。社会教育や文化財においても、やはり市民がそういうものに触れる中で、自分の生き方、そういう幸せを求めていくのが大事なんじゃないかというふうに思っています。そういう面で私も教育畑でやっておりますので、その強みは生かしていかなければいけないなということをおもっております。一人ではできませんので、皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## 第1 その他

### (1) 協議

#### ○益田市「教育に関する大綱」の見直しについて

柳井教育長　それではその他の協議になりますが、益田市「教育に関する大綱」の見直しについて説明をお願いいたします。

山本課長　益田市「教育に関する大綱」の見直しということでございますが、ご承知のとおり地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして、益田市も教育に関する大綱を平成27年6月に策定しております。このたび、この内容について変更しようというものでございます。理由につきましては、平成28年3月に策定されております益田市ひとつづくり協働構想がございすけども、この中に3つの基本方針がございす。仕事の担い手、地域づくりの担い手、未来の担い手を柱に、「ひとが育つまち益田」を実現させていこうというものでございす。この中の未来の担い手でございすけども、これには未来を担うひとつづくり計画というものがございまして、この計画との整合性を図っていこうということで、このたび見直しを行うというものでございす。内容につきましては、お手元のほうに変更案をお示しさせていただいておりますけれども、それぞれひとつづくりの関係で、今回ひとつづくり推進監ということで新たにポストが設けられておまして、大畑推進監を中心にいろいろと進めております。推進監のほうから全体的な見直しのところ、それから学校教育に係る部分もございすので、この辺りは教育改革推進室長からそれぞれ見直しに至った理由等を説明させていただきます。

大畑推進監 お手元の資料の赤字で修正したものをご覧ください。大きな柱は、先ほど教育総務課長が申しましたように、ひとつづくりの中で大きな取組の変更があったということで、市の流れから言いますと、まず人口拡大計画が総合戦略の中に入って、発展的に包括されているということで、今までのものにあった人口拡大計画という部分がなくなるということで、総合戦略に統合されているという点があります。それから未来を担うひとつづくり計画が策定されましたので、そこが益田市の人材育成の基本的な考え方、ライフキャリアを中心としたひとの中でひととなるという考え方で進めていこうということが計画されています。これが新たに大綱が策定された後に入ってきたということです。この計画があるんだということをまず位置づけて、裏面にありますように、未来の担うひとつづくり計画が入ったという点、それから併せて下の重点項目並びに方針のところの文言も改めたということです。一番下のところが、キャリア教育という言葉は一般的ではあるんですが、ワークキャリアも大事ではあるんですけど、ライフキャリア、いかに生きるかというところも大事にした取組をしっかりと保育園から高校までやっていきたいということです。ライフキャリアという言葉を中心に前面に出させていきたいと思えます。併せて、方針のところでも多くの益田でいきいきと暮らしておられる方たちをロールモデルとして、対話をする機会を具体的に今職場体験やカタリ場など様々な取組を進めていますので、対話というキーワードを入れさせていただきました。上の学力につきましては、学力向上を学力育成という言葉に、これは特別支援教育を踏まえながら全ての子どもたちの学力をしっかりと保証していきながら、しっかりと育成していくという観点で、いろんなどころで今育成に変わっているということで、学力育成という表現にしてはどうだろうかという提案でございます。表の右側につきましては、上のところにありますように、ICTと学校図書館の活用という学力を高める上での2つの大きな点が掲げられておりましたので、そこに沿ったように修正をしているところでございます。

城市参事 ただいま推進監のほうから説明があったとおりでございますが、少し補足をいたしますと、以前はICTや学校図書館を活用した教育などによって、確かな学力を身に付けるというような表現をしておりました。ですが、ICT教育や学校図書館教育というのは、確かな学力を身に付けることの一部を担っているものでありまして、むしろICT教育や学校図書館教育というのは読解力であるとか、あるいはそこにある様々な情報の中から情報を取り出したり、活用したり、あるいはそれを使ってどう学んでいくかという学び方を身に付けることのほうが大きな要素になるのではないかとこのように考えております。さらには、分かる授業とか家庭学習の充実といったことで、子どもたちに学習習慣の醸成を図

りたい、あるいは学びに向かう力というものを育成して、トータルとして自らの可能性を広げることのできるひと、これはひとつづくり協働構想における未来を担うひとの目指す姿ですけども、自らの可能性を広げるという教育を進めていきたいというふうに考えて文言を修正しております。

柳井教育長 変更理由の説明がありました。これについてご意見等ございますでしょうか。

渡辺委員 私は社会教育をずっとやってきたということもありますけども、教育委員会にいた時代に、学校教育を進める中において、義務教育ですから、子どもたちは聞きたくないというような学科もあるかもしれないけども、それは義務教育として強制的に教えてきたわけです。それで社会教育というのはどうなのかと言えば、社会教育というのは聞きたくなければ聞かなくてもいいわけです。私が社会教育を進めていた中で一番感じたのは、同じ目線で地域の課題を探って、その課題を解決するために学習をする、そして同じ目線で住民と一体となって、一緒にその問題を解決するための行動を起こしていくという形でない、受け入れてもらえなかったんです。そうしたことを考えたときには、やっぱり上からの目線で人をつくるという表現のところは、何か今までの私の経験からこだわりがあるんです。やっぱり同和教育の中でも、私たちはいろいろと討論をした中において、言い換えることができる言葉については言い換えるべきだという、その言葉自体に対して、いろいろと違和感を覚えるものについては言い換えるべきだということを学んできました。そんなことを考えたときに、子どもたちと話をするにしても、子どもと同じ目線でかがんで話すというようなことと同じように、みんなと一緒に一人一人を大事にしながら行動を起こしていくということが、今の教育行政には必要なんだということを私はずっと学んできましたし、そうした行動を起こしてきました。そうでないと社会教育自体に見向きもされなくなっていくという状況があります。そうしたことを考えれば、私は人を育てるということに対しては、もちろん他の人からいろいろなことを教えてもらおうということが一つの教育になっておりますけども、もう一つの教育というのは自分自身が学んできてそしてそのことで自らが変わっていく、自らが育っていく、そうした2つの教育があって、後者のほうが大事だということを私たちは学んできたんです。ですから、きちんとそうしたことをやっているにもかかわらず、こうしてひとつづくりという名前が出てきているんです。私も教育大綱についてほかの市町村ののを見ました。そうしたらひとつづくりというような表現があるところもありますけども、大半は人材育成とかっていう人を育てるという表現が多いんです。そうしたことを見ると、やっぱり担当者にこうした視点という

のが益田市の中では意識が低いんじゃないだろうかというようなことを感じていまして、そうしたことがあるということを念頭に置いて進めていかないといけないと思っています。

柳井教育長　ひとづくりという言葉についてのご意見でしたが、これについてはいかがでしょうか。

大畑推進監　整理していただくと、まず未来を担うひとづくり計画の主体者は益田市であるということと、これは行政が作った計画です。教育という言葉がありますが、教育というのは強制で、主体者となる場合は学習という言葉を使うのが一般的になっていますので、学びの主体者になった場合には学習者という言い方をします。教育というのはある意味強制力があるものですから、ある面では教育という言葉に関しては学校教育というのが言いやすいんだろーと思っっています。生涯学習という言葉で包括された中では、学習と教育が混在していて整理できていないということで、生涯学習課という課が社会教育課に全国的に戻っています。なぜならば、行政がすべき課題に対していかに働きかけをしながら、共に学ぶものではあるんですが、考えていただく主体者をたくさんつくるというのが社会教育の大きな課題になっています。確かにおっしゃるとおりだと思いますが、このたびはひとづくり計画というものを作るということでしたので、そこまで名前については、行政が作るものであるということで今回整理をしておりますので、しかもこれはそういう名前で作るということでしたので、そのまま使わせていただいたということです。ただ、市民に対しては「ひとが育つまち益田」ということがスローガンになっておりますので、共に育ちましようということは絶えず言っています。もう一点言いますと、ひとづくりという言葉で人が育つということに関して言うならば、子どもたちがよりよく成長するために、関わる大人自身に実は子どもたちとの関わりの中で育っていると、要するに子どもたちの影響によって関わる方も育っているんだという双方向の関係が教育には必ずあるんだろーと思っております。そういう意味では、共に人を育てている存在でもあるというふうに今回解釈させていただいて、今後こういう計画につきましては、先ほど委員さんがおっしゃった観点をしっかりと周知していこうと思っておりますが、このたびの整理につきましては今広めようとしている最中ですので、名前を変える必要もありませんが、こういう形で整理させていただいて、教育と学習という言葉の意味で、私たち行政として教育という部分をしっかりと意識した言葉であるというふうに整理させていただくことが可能だろうかということで、今後につきましては、広める上においては共に育つんだという視点で、しっかりと言葉を選びながら共に育ちながら行くんだと、もう一点は、子どもたちを育てるというのは、大人たちだけではなく逆に子どもたちと

の活動の中で大人自身が学び、成長し、育っているんだという点をととも大事にしておりますので、共に育つということはこの計画の中でも一番大事な肝にしておりますので、今委員さんが言われた観点を大事にしながらやっていきたいなと思っております。ただ、今名前をどうするかという点については、ちょっと現状では厳しいかなと思っておりますが、啓発の点、それから今後作るものにつきまして提案をしていきたいと思っておりますので、ひとつ作り協働構想というものも出来ておりますので、根幹に関わるどころだろうと思っておりますので、考え方としては委員さんがおっしゃるとおりだとは思いますが、整理としては行政が作ったものということで、今回整理させていただくことが可能かどうかということをご審議いただきたいと思っております。

柳井教育長  
水上委員

その点も踏まえながら、ほかにご意見ございますでしょうか。

これを最初に策定する時に、総合教育会議で随分討議をして、私がその時に言わせていただいたのは、やっぱりこれを作るだけじゃなくて、これをいかに市民の方々に浸透させるか、この考え方をどうやったら子どもから、先ほどの生涯学習を考えたときにはずっと大人も高齢の方にもという浸透のところを考えていかないといけないんじゃないかという話をさせていただいたんですけど、そのためにアユの遡上の絵も随分と討論した記憶があります。みんなが分かりやすくというようなことで、それを思い出したんですけども、この方針のところには私としてはみんながもっと分かる言葉遣いで、これをどういう方々が目にするのかというのは分からないんですけど、私はこうして資料として目にする機会がありますが、一般市民の方がこの数年の間にどういった場で目にされたのかというのが分からないんですけども、その辺がどうなのかというのが一つあります。それから目にされたときに、なるべく誰でもわかりやすい言葉で表現するというのを、今回の部分で言うとロールモデルであるとか、もちろん私は意味が分かりますが、分からない人にとってはこの方針を見て分かるかなというのがちょっと疑問に思います。ですから、できるだけ分かりやすい言葉、何でも含めたような言葉遣いではなくて、ストレートに目的を言い表した言葉のほうがいい場面じゃないかなというのを感じました。

柳井教育長

今水上委員さんから2点ご指摘がありました。まずはこれが今までどういうふうに市民の皆さんに普及されていったかという辺りについてはいかがでしょうか。

大畑推進監

啓発用に分かりやすいものは作っておりませんので、おっしゃるとおり今回改訂するのであれば、分かりやすい言葉で啓発用のパンフレット等を作るべきだろうと思っております。教育関係機関には配っていきまして、ホームページ上にも掲載しております。それから各種教育行政の方針で

あるとか、議会をはじめいろんなところで流す文言は全てこの4つの観点で整理し、事業の報告並びに説明をしてきたところです。ただ、おっしゃるとおり一般市民への直接的な啓発は不十分であったかなと思っています。

柳井教育長 今後の市民への啓発はパンフレット等が必要だと、学校にはきちんと流しているようですが、学校への啓発という面ではいかがでしょうか。出っぱなしというのではやはり定着していかないと思いますが、その後のフォローというのはどういうふうになっているのでしょうか。

大畑推進監 これに沿って事業展開していますので、きちんと今度の議会に向けて昨年度1年間の取組の成果については実績としてご報告できるようになっています。

柳井教育長 今の質問に関連して何かありますでしょうか。

舟橋委員 このひとつづくりという言葉も整理されて、今説明を受けて納得しながら聞かせていただきました。重点項目とか方針とかも行政の動きがきちんとできるためには、明瞭にこうして書くことが必要であったんだろうというふうに思います。この方針に沿ってどれだけ具体的な動きができるかというのが方針から更に具体策ということでもた出ていけば、より市民の方や教育現場にも分かりやすい部分もあるかと思います。実際にはここに書いてあるようなことが広がっていきつつあることは我々も目にしていますので、私たち自身は分かりやすく受け止めていますし、是非この方向で進めていってほしいなというふうに思っています。ただ、具体策が出てこないと責任を持ってないということになりますので、その一つとして、学力育成を支えるための施策の推進というところですが、子どもたちが安全で安心して学ぶための教育環境を整備するとありますが、この一言がとてもうれしく思いますし、是非ともこれが具体的に、環境というのは何の環境がどの程度、教育環境も広いですから、人的にも設備的にもいろんなことが含まれるので、果たしてそれが全部含めての意味なのかちょっと測れないふわとした状況であるなということをおもっています。できれば具体的に前に進めていただければ大変うれしく思っていますので、よろしく願いいたします。

大畑推進監 その当時、実は最後のご指摘の文言、子どもたちが安全で安心して学ぶための教育環境というのは、市長が大綱を作成するにあたり教育委員さんと一緒に校長会の代表の方たちと協議をした中で、学校教育においては子どもたちの安全で安心な教育環境というのが全ての根底であるということ、そのことを是非入れていただきたいということがあってこの言葉が入っているということで、実際は全体を包括するようなものではないだろうかということが最初はあったんですが、主に学校教育のほうから要請があったということでこの文言が入ったということです。た

だ、それについて具体がどうであるかという、実は前回これを作る時に、最初はこれに関する今年度の事業を全て挙げて一覧を作ったんですが、非常に多岐にわたってたくさん出てきてしまいまして、逆にこれがあることによってどう紐づいているのかと、説明が大変じゃないかということがありまして、皆さんに見ていただくものはシンプルにとということで、ただ、教育の概要等を作成するにおいては、これに基づいてこういう事業を今年度やっていると、教育行政の取り組み方針という教育長が述べるものについてもそれにのっとりながら、このために今年はこういうことをやりますというふうに文言を整理しながら説明をさせていただいているという形になっております。おっしゃるとおり年度ごとに、例えば啓発用のものを作るのであれば、特に目玉になる事業についてはしっかりこういう形で、具体的にこういうことを力を入れてやりますということをお伝えすることも必要なのかなというふうに感じました。

中野委員 関連してですが、私も先ほどの市民の方への周知ということで少し申し上げますと、これは平成27年6月1日策定ということで、市の広報に27年の10月頃にこの記事が載っておりました。それを基に当時小学校のPTA会長を務めさせていただいておりましたので、そのことも部会のほうで紹介させていただいたことがありました。当時はキャリア教育ということもございまして、今後はライフキャリアということもあると思いますので、内容が変わったことも含めて市民の皆さんへの周知ということで、再度広報等を活用しながら啓発に努められるという方法もありますので、また検討していただければと思います。

柳井教育長 今中野委員さんからも広報等で市民の皆さんに周知していた努力も見受けられると、今後もやはり継続的にやっていくことが大切なんじゃないかというようなことでした。また、先ほど水上委員さんから2番目として、もっと誰でも分かるようなものにしないと、分かりにくい言葉もあるのではないかということでしたが、先ほど大畑推進監のほうから、細かくしすぎると非常に広くなってしまうので、逆にそれはどうなのかということがありました。その辺りの文言を誰にでも分かるということが一番ではないかという思いはありますので、そのこともしっかり教育者だけに分かるということもどうかということがありますが、そういった辺りについて考えていく必要があるんじゃないかというふうに思っております。

城市参事 今施策の話もたくさん出たんですけども、実はここに学力向上とあったがために、学力に関する予算の付いた事業は学力向上連携推進事業というふうに今年度の予算書の中ではなっています。要は予算の区分分けの事業の名前なんですけど、こちらがまだ学力向上という言葉を使っていたがために今年度予算は学力向上という言葉になっているということ

をお知り置きいただけたらと思います。つまり今年度は予算の名前と実際にやっている施策には学力向上と学力育成という言葉が混在している状態となっております。

山本課長 今いろいろとご意見を頂きまして、この4つの基本方針はいわゆる上位の計画であって、今おっしゃるように誰もが見ても分かるようにということで、その辺りは啓発用のパンフレットを作るとか、そういう形で普及啓発していくということ、それからこの基本方針に基づいて、具体的に予算を組んで事業展開して、実現に向かって取り組むということをやっておりますが、28年度の事業についての点検・評価、毎年やっているものでございますが、その点検・評価を先ほど大畑推進監が言われたようにある程度細かい事業でくくりまして、自己評価をして、なおかつ教育委員さん方にもお示ししながら、また、外部評価もしていただくということによって、この4つの基本項目にどれだけ近づいたのかといったところを今年も行います。また、併せて、教育の概要というものを5月1日付けで作るようにしておりますけれども、これについても細かいところまで示すということで、皆さんにお諮りしながら、また、議会にも報告し、公表も行うということで動いておりますので、またそれらについてはお示しをしていきたいと思っております。今後の流れですが、教育委員会としての形を今日持ったということですので、これによって市長のほうにも説明をさせていただきまして、最終的な決定は総合教育会議に諮ることになります。それを踏まえて政策調整会議で報告するというので、今一応目指しているのが6月議会で報告できたらと考えております。

柳井教育長 今これからの流れについて説明がありましたが、またお世話になりますのでよろしくお願いいたします。

舟橋委員 私はこの12月で委員になりまして、これがもう出来上がった段階で見させていただいていますが、少し疑問な点がありましたので、少し調べさせていただきました。まず初めにぱっと見た時はすごく良い色で分かりやすく、アユが育っていくのがとても良いなと思って見させていただきました。私もアユのことはあまりよく分からなくて、まず仔魚期というのはどういうことを言うんでしょうか。

大畑推進監 そこに書いてありますように、アユが産卵して、海に出ていくまでの間のところを仔魚期と言うんだそうです。

舟橋委員 これが調べてみると、仔魚期というのは卵から孵化して、ひれが出来るまでのところを言うんだそうです。仔魚から稚魚に、これを併せて仔稚魚というふうな言い方をするようなんですけれども、まだひれが形作られなくて、この絵の尾びれも本来はこんな形にはなっていないようです。それから大きさも本当に小さなもので、尾びれも少し丸くなってい

るので、これを益田市として出していいのかなと思ひまして、そこら辺は専門的に調べていただいて、それから文言についてですが、教育と子育て支援の一体化のところで仔魚期の成長を切れ目なくというふうにあります、これはひれができないまでのそれだけの間なのかというふうになってしまいますので、例えば仔魚期からのというふうにするのであればいいですが、仔魚期だけでここを書いていいのかなというふうなこともあります、稚魚の場合はひれがある程度そろってきて、まだ色がついてないというような説明がありました。そういうふうな辺りもきちんとした形でされたほうがいいのかなと思ひます。

水上委員 あの方に会議の中で意外とこの絵について話題になったんです。仔魚期の話も随分話題になって、確かこれは職員の方が描かれたんですね。

大畑推進監 元々良い絵があったんですが、その著作権の関係で許諾がもらえなかったんです。それでその絵を基にうちの職員が描いたんです。ですからモデルの絵はあったんです。

舟橋委員 本当にかわいくてイラスト的でいいなとは思ひますが、やっぱり教育という場から出すものであれば、正しくしないといけないところは正しくしていかないと、これをみんなが見てアユはこういうものなんだと思ひてしまうと問題かなということも感じまして、そこは検討する必要があると思ひます。

柳井教育長 文言だけでなく絵のほうにもご意見いただきまして、アユの町としては、楽しい絵も必要なんです、正しい成長の絵というものも検討が必要というところです。

舟橋委員 それからもう一点、教育と子育て支援の一体化のところなんですけども、自然環境の変化や天敵などから身を守る必要があるとありますが、この天敵という言葉がちょっと気になりまして、人間にアユを重ねているわけですから、天敵という言葉よりは様々な困難とか、そういう言い方のほうがいいかなと思ひます。天敵だけが困難ではなくて、例えば体の不自由なアユも生まれるかもしれませぬし、そういうふうなことで言えばやっぱり様々な困難というような言い方のほうが適切であるような気がします。

柳井教育長 確かに子育てに敵という言葉がふさわしいのかどうかというのは考える必要があるかなというふうに思ひます。

大畑推進監 今後のことなんです、大綱は市長が定めるということでやっております、市長の任期とかに合わせていろいろと動いてくるんだろうと思ひますが、渡辺委員がおっしゃられるようにもっと大人の教育をとかそういうことがあるのなら、今回は改正ではあります、次の中に盛り込むものも是非またご提案を頂ければと思ひます。

舟橋委員 もう一点あるんですが、教育と子育て支援の一体化ということで、と

でもこのことは大切で、大きく言えば文科省と厚労省が一緒になってやるようなことで、教育と子育て支援が本当にうまくつながらないと、子どもたちの成長がなかなかスムーズにいかないということは事実です。ここでは施設が有効にということで、施設だけのことが書いてありますけども、例えば他市や他県のほうで行っているところもあるんですけども、学校教育の子どもたちのことと子育て支援でやっていることを一緒になった場所があるということで、そういうふうにして子どもたちを一緒になって困難からもすくい上げていくという、小さい時から、赤ちゃんの時からこうして教育に関わるのところまでうまくつなげていけるようなスムーズさが現実にはないんです。これは個人情報保護で関わって、課は課で持っているという形になるよりも、やはり益田市全体で流れを汲みながらということで、今その方向で動いているわけですけども、そういうことも少しここへ盛り込んでいただけると、また施策としても変わってくるんじゃないかなと思っております。

大畑推進監

子ども課という課にして、福祉と教育を一緒にしたという課が出てきています。福岡市は子どもの総合の支援センターがあって、児相が入り、不登校支援が入り、引きこもりが入り、母子の待避が入り、そこには警察、精神科医、臨床心理士、ケアワーカー、SSW、弁護士、そういう方々がいるような大きな館を作ってやっているように、ワンストップ化をやはり大きいところはやっています。それくらい困難な課題ですから、一緒にやらないといけないという方向にしているように思っています。

柳井教育長  
教育委員

ほかにはよろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

## (2) その他

柳井教育長  
舟橋委員

その他何かありますでしょうか。

持ち越しの課題で、部活動のことについて中学校の校長会の時に話が出ました。教育委員会として方針を出してほしいということだったんですけども、小学校から中学校へ上がる折に、その中学校には例えば自分は野球がやりたいとか、サッカーがやりたいとかっていうときに、進学先にはもう人数はいない、そういう部活動もできないというときに、ほかの学校へ行くとか、転校するとか、そういう辺りで、子どもや保護者さんへの理解を求めたり、あるいは理解していくための手立てをしたりということが非常に難しく、されども校長先生方や学校は、一生懸命に考えて、それぞれの対応をなさっているわけです。これはただ単なる部活動の問題ではなくて、学校がなくなるかなくなるかというところまで発展するというか、地域に子どもたちがいない中で他の学校へ移られたら困るという、残っている者が困る、行くほうも困る、親は未来

のことを考え、子どもも自分の将来を考えたときにはあそこでやりたいと、だから通うと、でも通えば親は大変な負担をかけられながらそれでも行かせる場合、途中で結局は挫折してしまうこともある、当然時間的にも労力的にも金銭的にも本当に大変なことをやりながら、それをせざるを得ない状況だったりとか、いろんな形があるわけですが、教育委員会としてどういう方針でということをし少し話をしたことはあるんですが、私自身の考えとしては、やはり基本的には本当にその子自身が一番幸せになる形を止めることはできないと思うんです。だけれども、周りとしてはそれに対してこういうこともあると、でもそれが乗り越えられますか、だったら頑張っていてもらっちゃいと応援できるという体制づくりとか、それから受入れ先もできればうまく入れ込んでいくとか、それから一番の問題はその子どもや親ではなくて、その周囲におられる方々が、地域も含めてどのように受け止められるか、あの子がいないがために1クラスが複式になったとか、いろんなことが起こりうるわけなんです。学校も3クラスが2クラスになったとか、これではやっていけなくなる、地域がなくなる、学校がなくなるというような大きな課題にぶつかってしまうわけですがけれども、それは仕方がないというのではなくて、いかに理解を求めて、理解をお互いに、話し合いながら本当に子どもの幸せのためにどうしたらいいかという話し合いをしてくださいという、それが大切なんですというふうな益田市としての方針とか、教育委員会としての方針というものが何か一つあると、後は時間をかけてしっかりと早めに協議を重ねてほしいと、教育委員会がこうだと出す方法もあるし、出さない方法もあって、そこら辺のところを検討していく必要があるというふうに思います

柳井教育長 この辺りは非常に難しい問題でして、非常に大事なことで、子どもの就学に関わってどう益田市教育委員会として考え方をしているのかというのは大事だと思いますので、今まさに親としてはいろんなところに行かせたいという親もいらっしやいます。地域の問題もあるかと思えます。しっかりと考えていきたいと思えます。

渡辺委員 小学校から中学校に上がるというときに、自分がしたい部活動がないからほかの学校に行くということで、こんな例があるんです。中国に日本人学校に教師で行っている家族がいて、そこでいたんだけどやっぱり一人で日本の学校に行きたいと中国から帰ってきて、高知県にある野球の有名な中学校に行ったんです。野球がやりたいからということで行ったんです。だけど1年学校に行ったらとうとうついていけないようになって、スポーツがものすごく盛んで、一流の選手になろうと思って志を持って行っている学校で、行ったけどやっぱりどうにもならないというので、仕方がないから今度は日本の学校じゃなくて親が先生をしている中

国の学校に行くから学校をやめたという話をこの前聞いたんです。やっぱり自分がやりたいのは、プロ級の野球選手になりたいとか、ゴルフを習いたいとか、そういう人たちは一部にはいて、有名なところに行くと、だけれども必ずしも全員が全員きちんとした皆さんから注目されるような選手にはなれないという部分があって、大きなリスクを持っているんです。そうしたところもあるといったことを考えたときに、地元にある学校に、無理して仲間のいるところよりも高いところを目指して行って、そこで芽が出ないという部分が可能性としては十分にあるんですが、無理して家庭的にも経済負担が多くなると思いますけども、将来的にきちんと甲子園にでも行けるくらいの選手になるとかっていうとそうでもないという部分もあると、それを誰がそういうふうなアドバイスができるのかということだと思っんです。親はそこを目指しているけども、無理してそこまで行ってもなかなかそこまで到達するのは難しいよと、選手として出場できるだけでも大変だと、部員もものすごくいるんだからと、でも子どもがやりたいというならそこまでやってあげないといけないという義務感の中でされるということなんですけども、中学校の段階で誰がそういうアドバイスができるのかと思ってしまいました。

舟橋委員

中学校の校長会ではそのことについても担当の先生なり管理職が面談をしながら、そういうリスクもあるよとか、これも大丈夫かなとかいう話し合いをしながらやってはおられます。リスクもちゃんと伝えようという話もありましたし、出られて有名になるのは頂点のほんの一握りですから、ほとんどリスクが高いんだけど、夢を追うことによってある程度自分の力が付くということは付くはずなんですけど、それがずっとつながるかどうかは別としても、そのときにこちらの方法にも動けるような力を付けていかなければいけないですし、夢はまるっきり初めからだめだとは誰もその子の人生にそこまで関与することはできないんだけど、いろんな情報は与えて、選択肢としてもう一回家族でしっかり話し合ってみたらどうだろうという話を返していくという、そのためにはそういう基本的なことは教育委員会としてそういうふうなしっかりとしたリスクも伝えて、家庭で話し合って結論を出してくださいと、やっぱり家庭と本人との中で最終結論は出していくということが必要かなと、そんなところの基本のベースになるところを教育委員会としては出していく必要があるかなと思います。

大畑推進監

学校の部活動については再編も考えないといけない時期に来ているんですが、これは中学校の学校再編と大きく影響していますので、それとやりたい部活がないという問題は切り離してまず整理しないといけないと思います。まず再編すればできるんです。人数が多くなれば。その問題と一緒にすると再編のこととの整合性が厳しいだろうと思っています。

もう一点は、根本的な間違いは日本の少年スポーツですから、小学校期に野球なら野球しかしないような子どもの育て方をしているのが間違いです。アメリカは4シーズンとって4つのシーズンに全て違うスポーツをするのが当たり前です。昔はいろんなスポーツを経験して、スポ少があるなし別にして、自分で中学校で何をやろうかなと選んでいたんです。今は小学校の時に親に連れていかれたサッカーを見てサッカーが好きだと思って好きになったかもしれませんが、ほかのスポーツをやっていないんですから、陸上をやってみたり、体操をやってみたり、いろんなことをやってみてその中でどれが好きかという選択ができない状態に子どもが置かれているところが不幸であり、根本の間違いだと私は思っていますので、スポ少にテコ入れ研修会を2年続けてやってもなかなかご理解いただきにくいところでもありますので、私とすると小学校期の少年スポーツのあり方については一番危惧するところだろと思います。小1で連れていかれたスポーツクラブが自分の人生の夢だと勘違いさせているのは大人ですので、そここのところは多様なスポーツを経験し、どれを次の段階でやるのかということくらいにしてあげないと、キャッチボールができないサッカー選手とかバスケットボール選手もいますので、逆上がりができなくてもサッカーが上手だったらいいという状態ですから、そういう教え方をしている少年スポーツのあり方を根本から考えないと、中学校の問題よりも実は小学校期のスポーツのあり方が非常に問題なんだろうなと思います。昔はもっと何でもやっていたはずなんですけど、できなくさせているのは大人だと思っています。

水上委員

今の話に同感です。今の小学生は遊びが下手なんです。遊びの中でいろいろ自分の身体能力を高めるのに、体も柔らかくないし、それから保護者も例えばスポ少の行事に学校の行事を合わせるとというのが現実ありますので、その辺やっぱり先生方、学校側も保護者も気を付けていかないと、どんどんそこがエスカレートしてしまうと、中学校に入って例えばサッカーをやっていたスポ少の子どもたちがサッカー部に入ると、新しくサッカーをやってみようかなと思っても、とてもじゃないけど入れない状況が現実問題ありますので、その辺りを切り開いていく、みんなが中学校に入って何の部活に入ろうかなと、選択肢のある希望に満ちた、気持ちを変えて小学校まではやってないけど野球をしようかなというときに選べるような体制をつくるほうが大事じゃないかなと感じます。

柳井教育長

中学校の部活動のあり方とか、そういうところに踏み込んだご意見、また、スポ少との関わりとか、今課題となっているお話をいただきました。ほかにはよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

柳井教育長　　次回は4月25日の10時から定例教育委員会を開催いたします。それでは以上で臨時教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

終了時間　14時40分